

第 6 次松江市地域福祉計画・地域福祉活動計画

市民ワークショップ報告書

日 時 令和 6 年 9 月 28 日（土）10 時～12 時
会 場 く に び き メ ッ セ 小 ホール
参加者 34 名

テーマ「見守りと声掛けのネットワークを拡げます」

●自分でもできそうなこと

- ・ 地域の人に、通りすがりでもあいさつをする、まずはあいさつから。
- ・ 自分から声かけして活動の輪、協力者を広げる、きめ細やかな声掛け。
- ・ 自分の所属する班の状況把握（年齢、家族構成）※班長にならないと難しいかも…。
- ・ 日常生活の関係で親しい方への声掛け、見守り。
- ・ 要支援宅の訪問、顔が見える関係を作る（安否確認で訪問しても応答してくださらない）
- ・ 地域での見守りと声かけの仕組みやサークルを理解する（活動内容、対象者、サークル、グループ、組織）
- ・ 近所のゴミ出しの手伝い。
- ・ 人に関心、興味をもって良い雰囲気づくり。
- ・ 福祉推進員の経験、継続。
- ・ 新聞や市報、広報をみて地域（県・市町村、小地区）のことに関心を持つ。
- ・ なるべく会合、集まりに参加する。
- ・ ボランティア活動に参加…まず自分が色々な人たちと交流することに慣れる。
- ・ 学生ボランティアがあれば参加する。
- ・ 先ほどの「お約束」を意識する。
- ・ ○○ながら見守り（例：買い物、ランニング）

●地域でできそうなこと

- ・ 定期的な声掛け。
- ・ 気軽に集まることのできる場をつくる。
- ・ 地域で顔が見えるようにするため町内会自治会へ加入していただく。

- ・町内会等で役員、民生児童委員、福祉推進員、なごやか世話人など関係者が情報交換の場を持つ、話し合いの場を地域に設ける。
- ・自治会で情報共有できることは情報共有する（個人情報取り扱い注意）
- ・自治会の中での自治会長との連携、何等かの役割も持てたら。
- ・自治会や地域の団体の役員を誰でもできる仕事にする。
- ・声かけ見守りをしているグループ、サークル同士の情報支援と情報共有。
- ・それぞれの支援グループの協働。
- ・地域で横のつながりが拡大するようにイベント等を行って関係づくりをし、見守りに活かす（一人より集団の方がやりやすい）
- ・銭湯情報収集、図書館情報収集。
- ・福祉の企業（団体）だけでなく、一般企業にも見守りしてもらう。
- ・生活するうえでいくところ、コンビニ、スーパー、公共交通機関、ガソリンスタンドへの働き掛け。
- ・なごやか寄り合い等への参加。
- ・なごやか寄り合いに多くの人に気楽に参加してもらえる企画をする。
- ・地域の高齢者団体などのグループがなごやか寄り合いを持つ。
- ・地区夏まつり、星空観察会、なごやか寄り合い等いろいろと企画する。
- ・地区のなごやか寄り合い事業にスタッフとして関わる。
- ・地域の中で行われる色々な行事 etc に参加する→色々な人々との交流につながる。
- ・福祉推進員、地区の役員など経験した人は気持ちまで卒業しないで協力してもらう。
- ・地域でお世話になることのすすめの推奨。
- ・見守りマップの活用、形骸化を防ぐ。
- ・学校-通学の見守り、先生と地域の方で。

●松江市・松江市社会福祉協議会などにしてほしいこと

- ・空家に関する情報提供と支援。
- ・見守り対象者等の情報共有、リスト等をつくる（個人情報保護も大切）
- ・個別台帳の全公民館での早期実施。
- ・個別の避難計画をつくる（いつ、だれが、だれに、どうする）災害時など。
- ・見守りに関する市レベルでの民生委員と福祉推進員の連携。
- ・なごやか寄り合い等の拡充。
- ・駅のバス停を改善してほしい。
- ・自治会での研修（見守りの効果・必要性…防災と併せて）
- ・事業への予算化はもちろんだが、活動する地域の人への何等かの気持ちの予

算化。

- ・ 問題の発見に対して中立的な対応をお願いしたい。
- ・ 社協ネットワークで様々な機関に見守りを依頼する。
- ・ 先進的な取り組みなど紹介する、アドバイス、情報提供する。
- ・ 市民ワークショップのような会を小さな地域単位で行い実情をよく知ってほしい。
- ・ 市社協、地区社協事業の広報周知。
- ・ 年代を問わず集まることのできる場をつくる。

● 上記を横断して出されたアイデアや意見

- ・ 声かけから始まる顔が見える関係をつくる。
- ・ 見守りにつながる地域資源の連携。

テーマ「こどもたちの健やかな育ちを応援します」

● 自分でもできそうなこと

- ・ こどもに関わるボランティアに参加する。
 - 学校行事に積極的に参加する。
 - 登校時の見守り。
 - こども食堂にボランティア参加。
 - 絵本の読み聞かせ。
- ・ 下校時にこどもにあいさつをする。
- ・ 子育て中の親へちょっとしたサポートをする。
 - お母さんが食事中にこどもを抱っこする。
- ・ 自分が計画している行事にこどもたちが楽しめる内容を盛り込む。
- ・ アドボカシー活動をする。
- ・ 学校と地域の高齢者との交流を深める。
- ・ 乳幼児の遊び場を「かんべの里」で月 1 回実施中。
- ・ 地域を月 1 回訪問し、話を聞くようにしている。

● 地域でできそうなこと

- ・ こどもが様々な体験できる活動を企画・運営する。
 - 学生や大人と交流することで進路選択の幅が広がる。
 - 中高生のボランティア体験の場をつくる。
- ・ こどもの居場所づくり。

- こども食堂の立ち上げ・運営（多数）
- 他のこども食堂立ち上げ支援。
- フリースペース。
- 寺子屋。
- ・世代を超えて一緒にいる場の提供。
 - 町内のこども会を中心に町内会全体でイベント。
 - ごちゃまぜな地域づくり。
 - 地域の人とこどもをつなげるイベント開発。
 - 地域住民とこどもが参加できるクラブをつくる。
 - 地域での清掃活動を年齢問わず、一緒に行う。
 - こどもだけでなく様々な世代が過ごせる居場所をつくる。
 - 年１回なごやか寄り合いとこども会を共同で行う。
- ・こどもやこどもに関わる人の声を拾う（アドボカシー）
 - こどもやパパ・ママの声を聴くことができる場づくり。
 - こどもやその家族の悩みを把握する（アンケートなど）
- ・その他
 - 公民館、乳幼児学級で「外遊び」をする。
 - 日曜学校（お寺を拠点にした地域の居場所、東広島の例）
 - 地域のお祭りで小中高校生がお店を運営。
 - 自治会内での世帯の把握（特に障害世帯の把握が難しい）
 - 愛隣館の活用（不登校、ひきこもり支援）
 - 若い世代のボランティア参加を促す（不登校の子が活動の担い手に）

●松江市・松江市社会福祉協議会などにしてほしいこと

- ・情報発信の強化。
 - 色々な制度について知っている人しか活用できないものもある。
- ・行政からの金銭的な支援。
 - こども食堂やフードバンクへの補助金。
- ・支援者支援をしてほしい。
 - 松江市へ、直営イベントではなくて地域の団体を応援してほしい。
- ・場所（ハード面）の確保。
 - 勉強ができる場所。
 - 児童館の代わりとなる場所。
 - 自由に遊べる公園、地域での公園の充実。
 - 中高生の自習スペースをつくってほしい。
 - 乳幼児の遊び場に公園を活用したい。

- 天神ロータリーにこどもの遊び場やスケボーパークの創設。
- ・ こどもたちの声を聴いてほしい（アドボカシー）
 - 社協の計画づくりにこどもの意見を聴く。
 - こども会議の開催。
- ・ ヤングケアラーなど問題を抱えている子が相談しやすい環境づくり。
- ・ 障害児をもつ家庭の孤立を防ぐ。
- ・ その他。
 - 地域づくりに協力・協働してほしい。
 - イベントではなく日常的に声掛けしあえるコミュニティづくり。
 - 演劇などの鑑賞体験を届けてほしい。
 - このような（市民ワークショップ）活動を拡大してほしい。
 - イベントの招待券を生活困窮家庭に配布。
 - 小学校のプール等の活用。

テーマ「人との交流を促進し孤立を防ぎます」

●自分でもできそうなこと

- ・ 近所の人にあいさつをする。
- ・ 近所の方への声かけ、困っておられたら。
- ・ 月一回民生委員として家庭訪問し話を聞いている。
- ・ 町内会、公民館に足を運んで情報をもらっています。
- ・ いろんな人に対しての理解を深める→人との交流につながる。
- ・ 高齢者～子ども集まる場に参加する なごやか寄り合い、子供会など。
- ・ 新しくコミュニティに入ってきた人を迎え入れる。
- ・ 「おたがいさま」に登録して応援者をしています（「困りごと」へのサポート）
町内会への参加と独居の方へのサポート。
- ・ 近所、町内も独居老人（高齢者）への声かけを行う。
- ・ あいさつをしよう!!
- ・ 地域の活動に自分から積極的に参加する。
- ・ なごやか寄り合い等に参加を誘う。
- ・ みんなで一緒に活動（掃除・旅・勉強）
- ・ 自分が孤立しないようにボランティアやイベントに行く。
（孤立していることに気づかない、孤立感を感じない）
- ・ 近所の人との立ち話。
- ・ あいさつをする 同じテンションの人など。

- ・とにかくあいさつをする。
- ・自分も積極的に行事 etc に参加し人との交流を 気がかりな人をできたら誘って。
- ・活動に友人や知り合いを誘って。
- ・地域での活動、ボランティア等に参加する。
- ・地域の行事に積極的に参加する。
- ・ニコニコ交流館の子どもたちとの交流。
- ・日常からのコミュニケーションを大切にする。
- ・小中学校主催 子ども企画・運営のイベント開催(学校でやる) 全員役割を持つ(自己すいせんの)、企画もまかせる。
- ・まずは道路であった人には誰でも挨拶する習慣をつける。
- ・挨拶をする。
- ・隣近所の人を誘って茶会を催す。
- ・さりげない声かけ。
- ・交流の場に参加する。
- ・ボランティアとしての参加。
- ・あいさつをする。
- ・とおりがかった人にでもあいさつする。
- ・地域を知る(新聞・広報等で)どこにどんな課題があるか、どんな人がいるか興味をもつ。
- ・ボランティア、イベント、井戸端会議に参加して顔をつなぐ。
- ・情報発信をする。

First Step

●地域でできそうなこと

- ・町内会への参加と独居の方への声かけ。
- ・なごやか寄り合いと子ども会を合せて行ったりする。
- ・町内会の役員として “みりよく” ある、皆さんが喜んで下さることを考えたい。
- ・地域の高校生(学校)との交流、子ども広場に淞南高校生に来ていただき小学生週 1 回の交流を行っている。 14:30-16:00。
- ・公民館など集まる場所がないなら小学校を活用する。
- ・HELP が言える場所(貼れる)公民館などのボード etc。
- ・子ども食堂も運営。
- ・MEYASUBAKO。
- ・公民館を地域の居場所に!!
- ・公民館等の利用を拡充 (サークル活動)

- ・事業所が畑をしている。地域の方と。一人で畑するより交流も増やせチャレンジしやすい。
- ・企業とコラボの居場所。
- ・お寺を開放し誰でも入れて相談できる処にする。社協からの働きかけ。
- ・掃除!!年齢関係なく。
- ・夏まつりを開催（ゆずります市）
- ・自治会活動、なごやか寄り合い、地区夏まつり、星空観察会等、地域行事を拡充し継続していく。
- ・地域イベントを SNS 発信。
- ・SNS、地域ライン。
- ・子ども会、自治会などなどつながり強化必要。
- ・こども食堂、そうじなどの交流の機会をつくる。
- ・地域住民がつながることのできる居場所←たくさん。
- ・子ども食堂。
- ・気軽に集まれる場所を作っていく(少人数から始めるのがよい)
- ・誰もが立ち寄れるスペースづくり。
- ・世代にこだわらないイベントを考える(バス旅行など)
- ・異世代交流。
- ・気になる人について関係者-民生委員、自治会長 etc との情報共有(個人情報厳守の上で)
- ・定期的なイベント開催。
- ・地域のイベント。
- ・地域行事をオープンにする。
- ・高齢者のスキルを生かせる場所。
- ・自治会に加入していない人とのつながり。
- ・様々な世代の方が参加できるものを企画してほしいです。
- ・世代を超えた交流の場を増やす!!
- ・お助け隊。(時間がかかるけど) こまりごと調査→できる事からまずやってみる。
- ・公民館 or 小中学校を拠点にして地域の世代間交流をはかるイベント実施。
- ・子ども関係の交流の場づくりをする→子どもと一緒に“親”(若い人・次世代)も来てくれる。
- ・自治会、公民館のイベントがあれば隣人等を誘う。
- ・近くで行われるイベントなど(寺子屋)声かけ。
- ・住民同士での情報共有。
- ・公民館機能、役割を若い人にも広める。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・地域サロンで月ごとにイベントを開催（クリスマス・正月・お寺）・集会所や会合に参加できない人がいることを知る。 |
|--|

●松江市・松江市社会福祉協議会などにしてほしいこと

参加しやすい地域での活動を行う。 ex.勉強会→ゲーム

住民参画の機会を沢山行ってほしい。

SOS の出し方、相談員 or ケアマネ方からアドバイス、SOS はこんなこと、どこへ伝える。

子ども食堂への物資提供や助成金等(すでにご協力いただいております)

- ・福祉推進員だけでなく、近所・隣の人等との連携・声かけを行う。
- ・お出かけバス支援の拡充。
- ・無料タクシーとか、回数券の配布とか（期限つき）
- ・公園の活用（GG・まつり etc）
- ・包括の充実（人員増加）
- ・町内会主催の行事の支援。
- ・地域のイベントの開催の補助金を出してほしい。
- ・今回のようなワークショップを数回してほしいです。
- ・支援メンバーの交流会。
- ・松江 HP で地域イベント発信!!
- ・地域スタンプラリー（お店・公民館 etc）
- ・様々な世代の方が参加できるものを企画してほしいです。
- ・なごやか寄り合い etc 交流の場が乏しい地域→空家 etc の活用支援を。
- ・ごちゃまぜ福祉的なまちづくり。
 - 市、市社協主体のイベントやボランティア活動を実施する。
 - 今行われているものを継続的なものにする。
- ・イベントへの招待。
- ・支援されたい人、支援したい人を結びつける。
- ・公民館やお寺に働きかけ。
- ・子ども食堂は子どもに限定されることなく、見守る人が気軽に参加できるしくみと一目でわかるマップを。
- ・交流の場、イベントなどが伝わりやすい情報発信。
- ・法人を巻き込む→継続的に活動できる。
- ・資金面、人手。
- ・1人でも参加しやすいイベントの企画。
- ・補助金を多めに出す。
- ・その地域づくりに協働してほしい。

●上記を横断して出されたアイデアや意見

- ・地域の福祉の仕組み等、子どもたちは知らない。
 - ・プロゲーマー、ユーチューバー等、先々人とのつながりどうなっていくんだろう…。
 - ・学校教育の場。ZOOM 使うことで子どもとの関わり、薄れているのでは…。
 - ・活躍の場づくり。
 - ・集まれる場をつくる。
 - ・さまざまな世代がごちゃまぜな地域づくり。
- ・集会所や会合に参加できない人がいるところを知る。
- ・協働

テーマ「健康づくりと介護予防に取り組めます」

●自分でもできそうなこと

- ・地域で開催される健康教室の参加。(2)
- ・自分自身をコントロールして食事と運動に取り組み続ける！
- ・普段からチョット運動。
- ・興味もったサークルに参加する。(2)
- ・いろいろな所が開催しているウォーキングイベントなどに参加。周りの人を誘って。(2)
- ・ウォーキングイベントで良かったことを行かなかった人にも話す。
→プレゼン。
→近隣の方への参加うながし。
- ・友人等とサークルの立ち上げ。
- ・とにかく笑う。
- ・一緒に勉強・スポーツ・掃除。
- ・健康の大切さ。治療できないつらさを伝える。
- ・フレイル予防を意識した生活。
- ・生活習慣病予防の「良い生活習慣」を。
- ・健診の継続。
- ・月1回地域を定期訪問して情報収集しなごやか会等を開催（軽い体操）
- ・定期訪問時に健康まつえ21のチラシ（フレイル等）の配布。

●地域でできそうなこと

- ・健康に関する料理教室。

- ・食への興味に色んな視点があることをトーク。
- ・健康教室の充実（健康まつえ 21 推進隊活動）
- ・ミニ集まり、運動デーなど近所で声をかけあっている。
- ・体操教室を身近な場所で開催する。（公民館より行きやすい場所で）
- ・なごやか会の健康体操への参加者を増やす。
- ・地区運動会にだれでも参加できるようにし、参加者を増やす。
- ・体力づくりのイベント。
- ・いろんな企画をして体を動かす機会を増やす。
- ・多世代交流の場。
- ・年 1 回高齢者と子供会（親子会）との合同イベントを地域で開催。子どもとの交流は元気がもらえる。
- ・不健康・介護の方との関りが無い。増やす！
- ・地域で、健康でいる目的をつくる。
- ・多職種多機関、地域資源（ボランティア、スーパー、寺など）住民の関りを増やす地域力↑。
- ・もっともっと公民館を利用する。
- ・大庭地区寿会（794）4 年間（コロナの時も）会員に（る・る・く・るキャンペーン）健康まつえの推進事業に 11 月 1 ヶ月間会員に取り組みました。
- ・認知症に対する正しい理解を！認知症になっても住み続けられる地域でありたい。
- ・子どもの時からの認知症に対する正しい理解につながる働きかけ。

●松江市・松江市社会福祉協議会などにしてほしいこと

- ・介護の教室（勉強できる機会）
- ・高齢者ではなく働いている世代への介護予防のアプローチ。
- ・補助金の拡充と増額（2）
- ・様々なサークルの立ち上げ援助。
- ・見える化、うながし。
 - 自分の身体について数値で見えるきかひの創出。
 - 健康イベント←いろんなところとコラボ→外出（結果健康になっている）
 - 市と協力しながらチェックリストにひっかからなさそうな方への訪問しサークル参加をうながす。
 - 参加しやすい健康セミナーで知識を持ちたい。
 - 正しい情報、まちがった情報。
 - 松江市の主催イベントを多く（お手伝いします）

テーマ「地域の生活課題に取り組みます」

●自分でもできそうなこと

- ・あいさつをする（2）、話を聞く。
- ・挨拶などで関係をつくり、困りごとなどを知る。
- ・声掛け。
- ・私が声をかける人を決めている。
- ・困っている人がいたら声をかける。
- ・困りごと、悩みを関係団体・関係者に伝える。
- ・地域の生活課題の把握。色々な会に進んで出席する。
- ・自分からすすんで気づき（生活課題）に関心を
- ・困りごとが発生する前に相談先などの情報を求める。
- ・家の周辺の雪かき。
- ・ボランティアに参加する（2）
- ・生活課題解決に向けた具体的項目支援の自らボランティア。
- ・雑草を1本でもいいから抜き取る。
- ・イベントへのお誘い。
- ・町内会への入会呼びかけ。
- ・なごやか寄り合いへの参加呼びかけをする。
- ・独居高齢者へ町内会や、なごやか寄り合いへの参加呼びかけ。
- ・地域の課題を知る。
- ・地域を越えたテーマごとのつながりも多様化する。
- ・顔を合わせるしくみ（お祭り）。
- ・横のつながりを大事にする。
- ・おゆずる市（寄付文化）。
- ・庭木の整理（道路にはみ出した樹木）。
- ・有償ボランティアの存在をもっとアピールしたい（おたがいさま まつえ・やすぎなど）。
- ・つながりをどう作ればいいのか困っています。
- ・住民の皆さんとの交流を通じて悩みを聞く。
- ・定期的にお店を開く。

●地域でできそうなこと

- ・つながりづくり。
- ・ご近所同士の助け合い。
- ・困っている人を地域で助ける。

- ・あいさつ活動、気軽な声掛け、気にし合う関係づくり。
- ・年1回記念写真を撮る。
- ・すべての子どもが参加するイベント（子どもの社会参画）
- ・孤立化を防ぐ（イベントへの参加促し）
- ・突然の日常が変わるとき⇒家族支援
- ・駐車のルール（迷惑なことあり）
- ・ゴミ出しのルール。
- ・多世代が楽しめるクラブづくり。
- ・10代の居場所づくり。
- ・子どもが遊べる場所づくり。
- ・小中生の放課後居場所づくり。公民館は役割果たせそう。果たしていないところも多い。
- ・サロンなどでお茶を飲みながら話せる時間。
- ・誰でも参加しやすい開かれた場。
- ・何でも話して楽しめる場をつくる。
- ・子ども食堂の復活。
- ・個食の高齢者さんや、多世代でも子ども食堂での交流。
- ・子ども食堂へ、子どもと親だけでなく誰でも参加OKということの認知を広める。
- ・高校生、中学生、不登校のお子さんへの呼びかけ（子ども食堂などへ）。情報発信、橋渡し役。
- ・買い物に行くための手段。
- ・買い物支援をしてほしい。考えて！町の中は買い物難民。
- ・必要な情報を知ることができて、たらい回しにならない仕組みを作る。
- ・公民館を利用しやすくする（時間、料金 etc）
- ・公民館を居場所に（24H営業 コンビニ化）
- ・情報の周知に力を入れる。
- ・地域と行政が協力する（連携）
- ・コミュニティバスをつくりたい、つくってほしい。
- ・困った時に頼れる場。
- ・地域づくりを協働して行いたい。
- ・町内会などの役員をサポートし、活動を支援する。
- ・生活課題の支援づくりのまとめ。
- ・生活課題について話してみるなど、話し合いの場づくり。
- ・関わりのある人が集まって共通する課題や要望をまとめる。
- ・人と人をつなぐ仕組みづくり（町内会 未加入者）

- | |
|--------------------------------|
| ・ 高齢者と若者など生活様態の違う人の交流を図る(場づくり) |
|--------------------------------|

● 松江市・松江市社会福祉協議会などにしてほしいこと

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 交通網の充実（現在悪循環）。・ 電車、バスが不便なので何とかしてほしい。・ 朝の通学、通期ラッシュの時のバス増便。・ 移動販売。・ 移動支援のサポート（市内でもニーズが高い地区がある）。法的支援（制限多いので）・ 街灯の充実。・ 空き家活用。・ 公民館単位でミニボランティアセンター（困ったと言える場所）・ ときどき平日や夜に公民館を稼働させる（参加しやすさ）・ 地区社協ごとのワークショップ。・ 課題を共有する場をつくる。・ 今回の機会をお金かからない方法で継続して、啓蒙活動にも繋げてほしい。・ 目安箱の設置と、その内容の広報と対策・結果を出す。困りごと対策課。・ 神社、寺、大学、企業と一同に会して対策を検討しては？・ 松江市各地区の生活課題等のまとめ（他地区への展開）（うちにはこんなことがある）・ 地域が抱えている課題をどのルートに乗せ解決するかアドバイス、サポートする。・ 小学生の時から地域には色々な人が暮らしていることを教える。・ 子の療育・教育と一緒に親、関係者の支援・教育。・ NPO の活躍しやすい社会づくり。・ 情報発信（1人で抱えない）・ 市民に政策を知らせる HP を。・ 駅前再開発をもっと広く市民に周知し広聴、広報して市民参加できるようにしてほしい。・ 少子化対策！明石市の事例を市民にも聴いて対策をとってほしい。・ 経費を増やしてほしい。 |
|---|

テーマ「防災意識を高め災害に強いまちを目指します」

●自分でもできそうなこと

- ・ 連絡先、避難場所の確認。
- ・ 災害発生時の避難先、行動を決めておく(マイタイムプラン)
- ・ ハザードマップの勉強会、理解をする。
- ・ 本気になる!!(能登にも地形が似ている)
- ・ 防災に関する知識を高める。
- ・ 防災バックの作成。
- ・ 止水版の準備。
- ・ 円滑に避難誘導できるよう訓練を行う。
- ・ 災害の時具体的に呼びかける人を頭に入れている。
- ・ どこにどんな人、子どもがいるのか知っておく。
- ・ 土砂災害の前触れなどの知識をつける。
- ・ 自分から落ち着いて行動するように心がける。
- ・ 避難行動マニュアルを備え付けておく。
- ・ ニュースや本などから災害に対する情報を得る、学ぶ。
- ・ 家族と連絡について話合っておく。
- ・ 困っているかもと思う人がいたら勇気をもって声をかける。
- ・ 近所の方との交流を持っておく。
- ・ 同じマンション同士の方が知り合う機会を作っておく。
- ・ シチュエーションごとの行動を家族で確認する。
- ・ 自身が用意しているものを近所の人と共有する。
- ・ こどもの視点について知ったことを子育て中の人に教える。
- ・ 両隣の家の声かけ。
- ・ 訓練に参加し自分の役割をみつける。
- ・ 生き延びるための行動と準備をする。

●地域でできそうなこと

- ・ 要配慮者がどこに住んでいるのか確認⇒避難時の手伝いを行う。
- ・ 住民同士の連携づくり。
- ・ ハザードマップの作成と配布。
- ・ 顔が見える関係の地域づくりに向けた情報提供。
- ・ 誰一人取り残さないための連携、組織づくり
- ・ 避難場所や避難ルート、備蓄を町内で確認(シミュレーション)
- ・ 自分の住んでいる地域の災害リスクを知る。

- ・ こどもから大人まで参加できる勉強会の開催(遊び感覚でキャンプ的な事)
- ・ 自分の町は大丈夫という考え方の対応をどうしたらいいのか。
- ・ 防災講座の開催(それぞれの生活状況などにあった内容で開催する)
- ・ LINE でつながる(公式 LINE の利用)
- ・ テレビや行政からの広域避難情報ではなく、その地域に合った情報発信の情報
報を考える。
- ・ マンション等で自治会がない場合は隣人等に働きかける。
- ・ 要配慮者に声かけをし、希望を聞いておく。
- ・ 共働き家庭の子どもの避難について共有する。
- ・ 協議体をつくる or いつもの協議体で防災について話し合う。
- ・ 小地域単位でのマップをつくる(普段の見守りにも使う)
- ・ 防災訓練を継続する(手を変え品を変え)

●松江市・松江市社会福祉協議会などにしてほしいこと

- ・ 避難先での支援の充実(騒音トラブル、メンタルケア)
- ・ 個別避難計画を早く作成を。
- ・ AED がどこに設置してあるのかわかりやすくして。
- ・ 避難イベント等の広報。
- ・ 防災という名目だけではなかなか興味が持てないので、魅力あるものにする
ために外部とのコラボ。
- ・ 民生委員として、もう少し細やかな情報がほしい、対応者が多く個別の訪問
が難しい。
- ・ 避難所の設備と備品の確認。
- ・ いろんな世代の人が集まれる場所を。
- ・ 本気の避難計画(水郷祭でさえ混雑してて動かない)
- ・ 多様な避難訓練。
- ・ 地区としてどの程度動くのか示してもらう(市でする事地域ですることの明
確化)
- ・ 住民にわかるように防災に対して各地区の違いを取り上げ、意識をより高め
るためにリーダーシップを取っていただきたい。
- ・ 避難所がどこにあるのかわかりやすくする。
- ・ 福祉避難所の整備、福祉施設の活用。
- ・ 避難所がどのような災害に対応しているのか明確化する。
- ・ (市に対して)各自治会で不足している備品の助成。

